

## ＜縄文土器を読む—私が惚れたまほろんの一品—＞

まほろん館長 石川 日出志

【導入】 私は、今から 20 年あまり前、まほろんに通って、福島県内のたくさんの弥生土器を観察・実測して東北地方の弥生時代を学ぶ足場固めをしました。一昨年、思いがけず館長になって再び通い始めた時、一品展示してある 1 点の縄文土器に見惚れました。学生時代に、縄文時代中期土器を追いかけた時、福島県内の資料と研究成果に惚れたのですが、その時のときめきが蘇ったのです。天栄村の桑名邸（くわなやしき）遺跡の土器です。

この 1 点の土器を手がかりに、考古学では縄文土器をどのように読み解いているのかをご紹介しますと思います。

### 1. ＜私が惚れたまほろんの一品＞への道

#### (1) 大学 2 年生 (1975 年) ではまった縄文時代中期土器： 新潟県阿賀野市横峯 B 遺跡 【1】

- ・発掘担当者から任されて、縄文中期の集落（横峯 B 遺跡）を調査。中期中頃。
- ・10 数種の器形にそれぞれ数種の文様が施されるにもかかわらず、当時の新潟県内の縄文中期中頃の土器研究は、2 種類の火焰土器にばかり注目する傾向が強かった。
- ・自力で報告書作成： 川上貞雄・石川日出志 1981『横峯 A 遺跡・横峯 B 遺跡』安田町教育委員会（原稿完成 1978 年：大学院 M1）

#### (2) 縄文中期土器を学ぶ二つのバイブル

- ・寺村光晴 1961『枋倉』枋尾市教育委員会： 住居跡の一括土器群を重視
- ・丹羽茂 1971「縄文時代における中期社会の崩壊と後期社会の成立に関する試論」『福島大学考古学研究会研究紀要 1』： 卒業論文で中通りの中期土器編年を体系化 【2】
- \*特に丹羽論文に惚れ、卒業論文の課題を縄文中期土器とするも、2 年かけても届かないと気づき、断念。横峯 A 遺跡の縄文晩期～弥生中期に変更。→ 現在弥生時代を専門とするようになるきっかけ。

#### (3) それゆえに縄文中期土器への惚れは消えない。→桑名邸遺跡土器に惚れる！

- ・猪苗代町法正尻遺跡の土器群（国重要文化財指定）と同時期。

### 2. 天栄村桑名邸（くわなやしき）遺跡 381 号土坑-2

#### (1) 1989 年調査： 縄文時代中期中頃の集落（竪穴住居跡 37 基・土坑 511 基） 【3】

- ・Ⅱ区＝住居跡と土坑が環状集落をなす。Ⅲ区＝住居跡と土坑が塊状をなす。
- ・目黒吉明（監修）1990『矢吹地区遺跡発掘調査報告 6 桑名邸遺跡（第 2 次）』福島県教育委員会・助福島県文化センター

#### (2) 貯蔵穴 381 号土坑-2 【4】

- ①. フラスコ形の貯蔵穴から 5 個体の土器： 出土層位は、5＝底面→4＝6 層→3＝5 層→1・2＝3 層の順だが、土器の特徴はみな「(福島) 大木 8 a 式土器」段階

- ②. 二つの土器群： 胴部に縄文もつ1・5 = (福島)大木8 a 式, 胴部にも縄文のない2～4 = 馬高式の在地化 (ただし1は両者が融合)
- ③. 土器2をもっと詳しく見てみよう：つくる順序(成形と器面分割)と装飾(文様) 【5】
- ・1： 土器本体の形(キャリパー形).
  - ・2： 内湾する口縁部と筒形の胴部を水平に分割. 区画線に粘土紐(隆線).
  - ・3： 口縁部・胴部とも縦に四分割. 区画線に粘土紐(隆線).
  - ・4： さらにそれを縦に二分割. 3-4：口縁部に大きな突起を配置. 粘土紐(隆線).
  - ・5： 4で分割した部位それぞれに, 口縁部は渦形, 胴部はジグザグ図形を配置.
  - ・6： 沈線(細い線)で空白を埋め, 器面を整えて仕上げる.
- ⇒ a)器形, b)分割, c)装飾の帯, d)単位文様, e)空白充填(地文の場合も), f)施文方法の6項目で土器を見るのが基本.
- ④. 共伴した他の土器を点検する. 【4】
- ・3： 器形は2と同じ. 分割法もほぼ同じ. 渦の多用と胴上部構図配置も同様.
  - ・4： 器形は2と同じ. 分割法もほぼ同じ. 渦の多用も同様.
  - ・1： 器形は2と同じ. 分割は口縁部と胴部がずれる. 渦の多用と胴上部構図配置も同様. 地に縄文施文.
  - ・5： 器形は2と違う. 水平区画は同様だが, 縦区画がない. 渦形文様を用いるが1～4より大ぶり. 地に縄文施文.
- ⇒ 5・1は「(福島)大木8 a 式土器」. 2～4は馬高式(新潟).
- ⇒ 1は「(福島)大木8 a 式土器」だが, 馬高式の影響を受けている.

### 3. 土器型式とは何か 【6】

- (1)「地方差・年代差の単位」(山内清男 1937「縄文土器型式の細別と大別」『先史考古学』1-1)
- ・縄文土器は, 地方ごと, 時期ごとに, 特徴のまとまりのある土器群が認識でき, それを土器型式と呼ぶ.
  - ・土器型式は, それぞれ土器の形・区画・文様・施文法が定まる土器の組合せからなる.
- ⇒ 土器型式は共通の土器を製作し用いる人間集団を表す.
- (2) 山内清男の縄文土器型式の細別と大別の意味
- ・細別： 土器型式を細分することで, 文化の動態を読み解く基準を定める. 文化的にも意味がある.
  - ・大別： 土器型式が多数に上ると煩雑になるので, 大別して便宜をはかる. 大別に文化的な意味はなく, それは細別土器型式をもとに判読する.
- (3) 桑名邸遺跡 381 土坑土器群を考える 【5】
- ・(前掲) 5・1は「(福島)大木8 a 式土器」. 2～4は馬高式(新潟).
  - ・(前掲) 1は「(福島)大木8 a 式土器」だが, 馬高式の影響を受けている.
- ⇒ ・「大木8 a 式」は岩手・宮城・山形地域の土器型式.
- ・しかし福島県内は特徴が異なる = 新潟方面との連携が明瞭.
- 器形・分割法・文様配置・文様構図・施文法など

- ・大木8b式以後，宮城・岩手方面との差異が縮小していく。

#### 4. 文様帯という見方

##### (1) 山内清男の土器研究法の一つ

- ・山内清男 1964 文様帯系統論『日本原始美術1 縄文式土器』講談社

- ・縄文土器は，文様帯（＝文様を配置する横帯）がある。

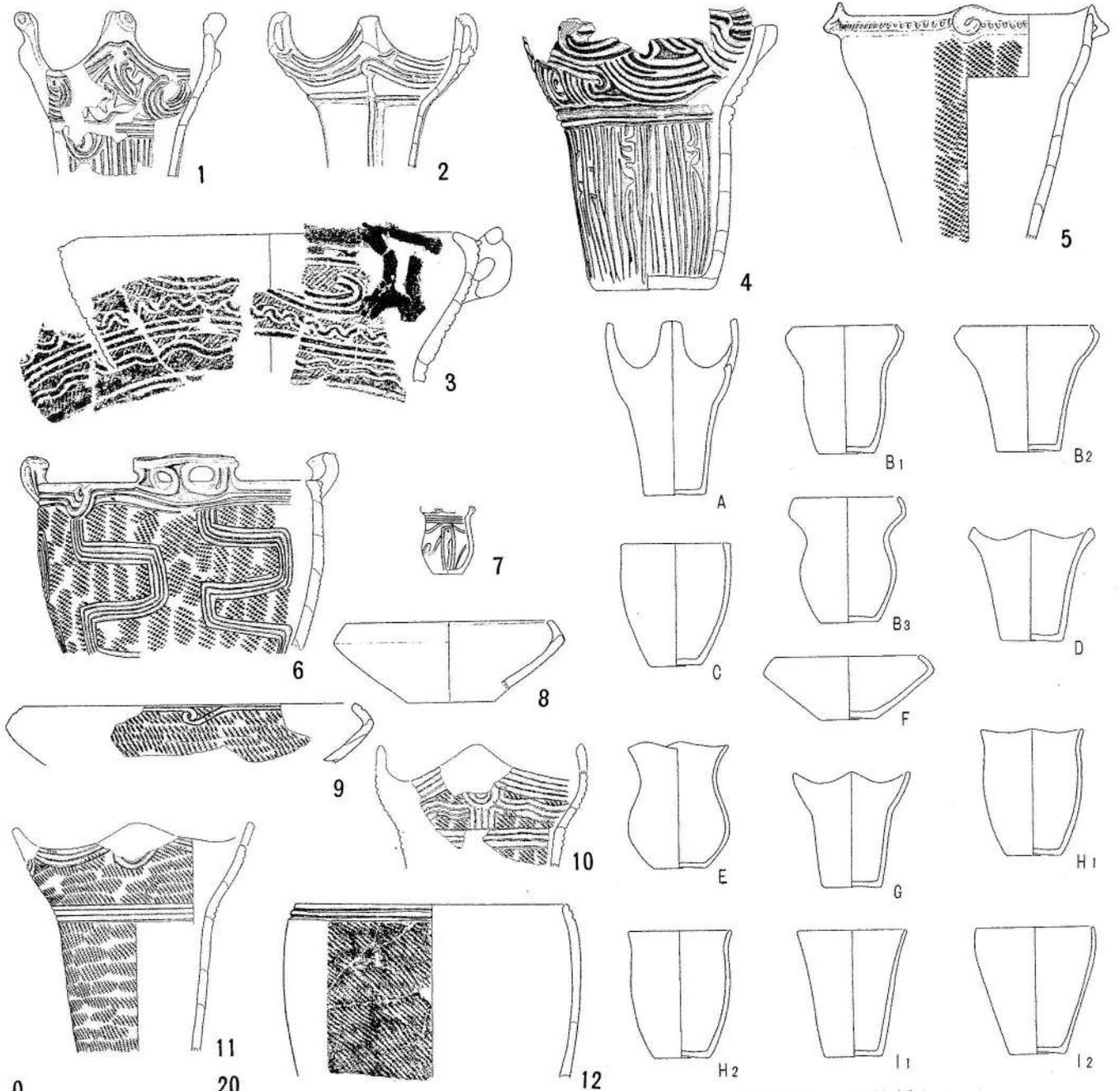
まず縄文前期までに，Ⅰ.口縁部文様帯が始まり，次いでⅡ.体部文様帯ができ，そこから分割・派生していく。 【7】

- ・土器型式ごとに文様帯の特徴があり，土器型式どうしの関係（系譜）を読み解く鍵となる。

【8】

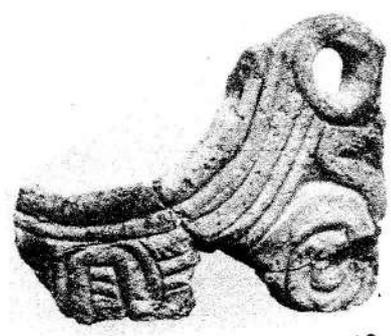
##### (2) 世界各地の土器に応用できる！ 【9・10】

以上

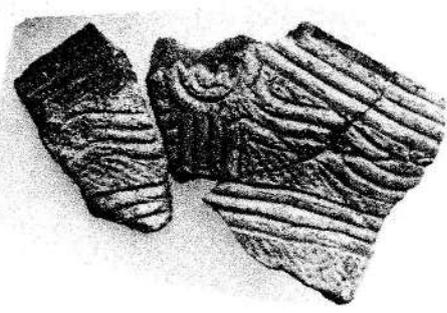


多彩な装飾

器形だけで十数種ある



13



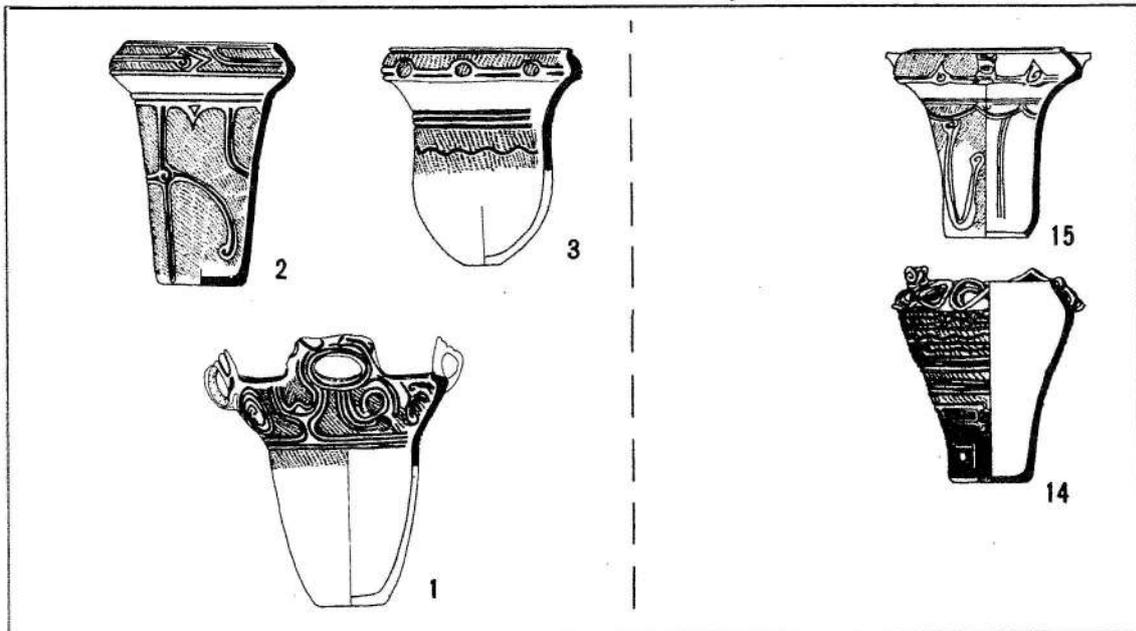
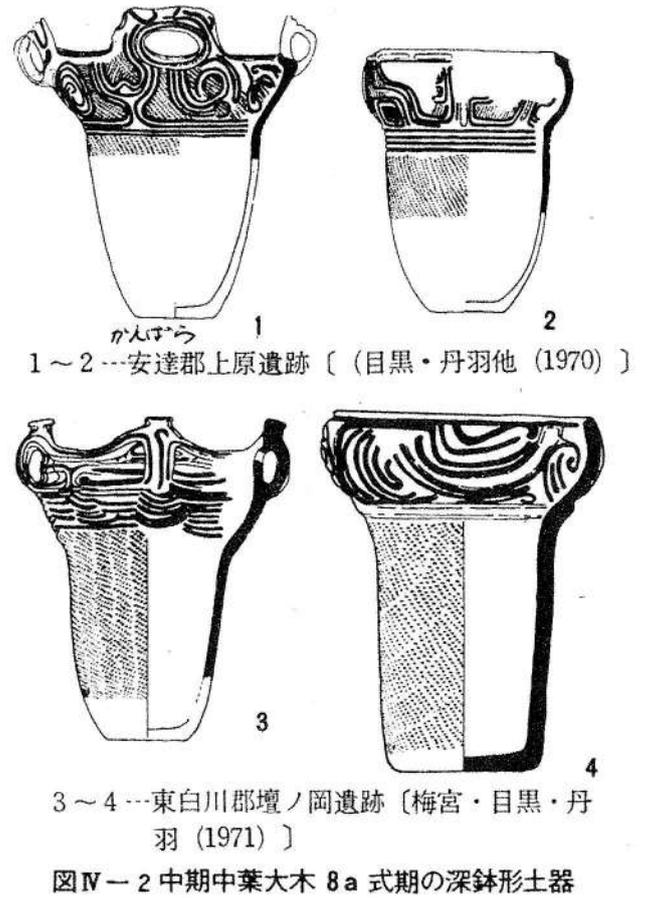
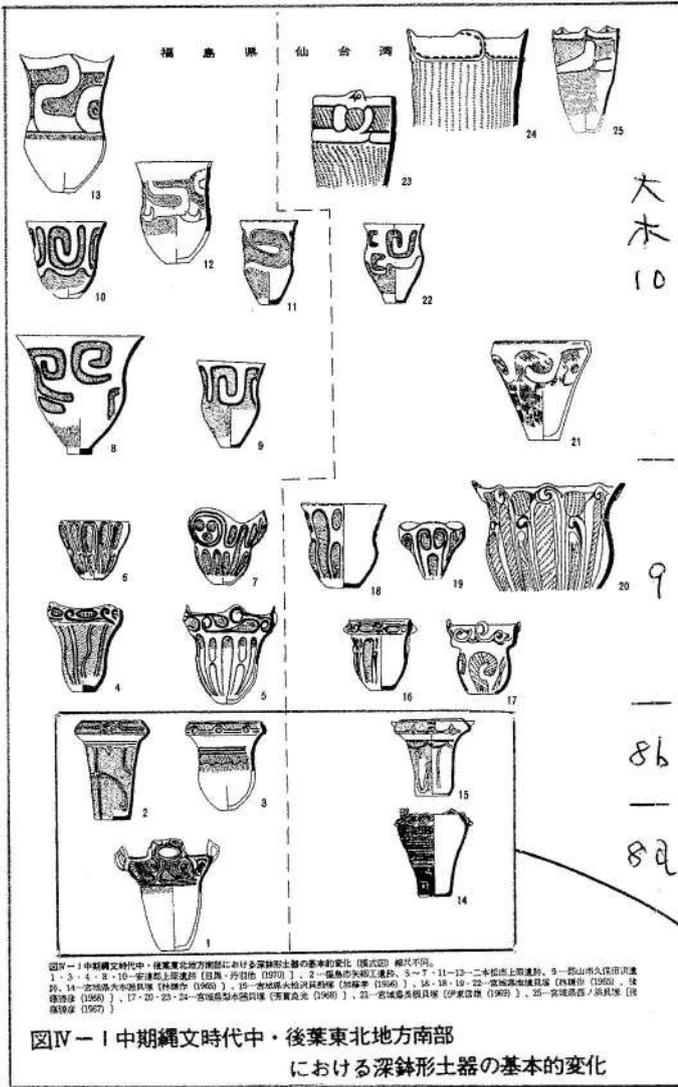
10



14

半截竹管を多用する

私のはまった縄文中期土器： 新潟県阿賀野市横峯B遺跡  
 (川上貞雄・石川日出志 1981『横峯A遺跡・横峯B遺跡』安田町教育委員会)



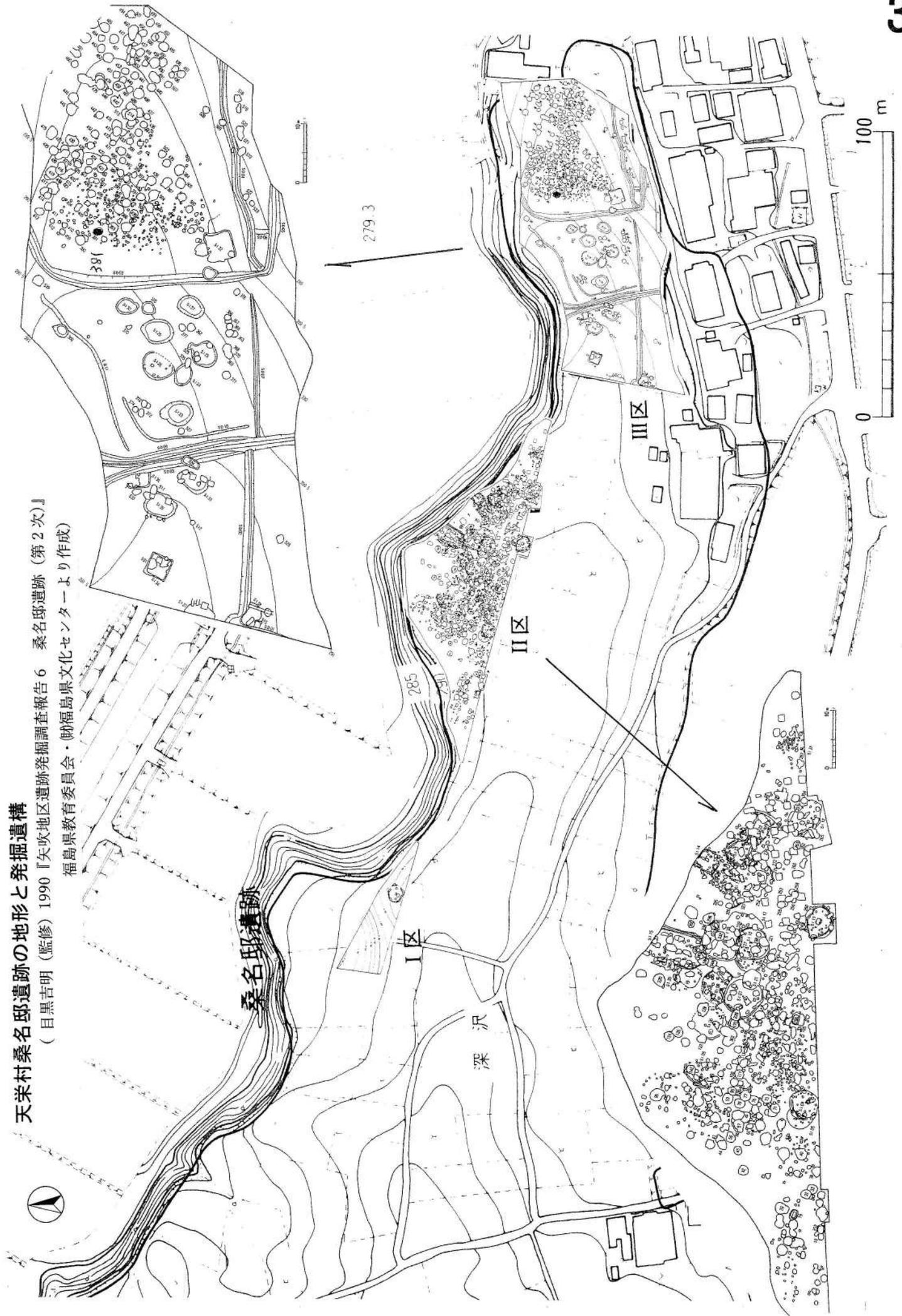
憧れの卒業論文

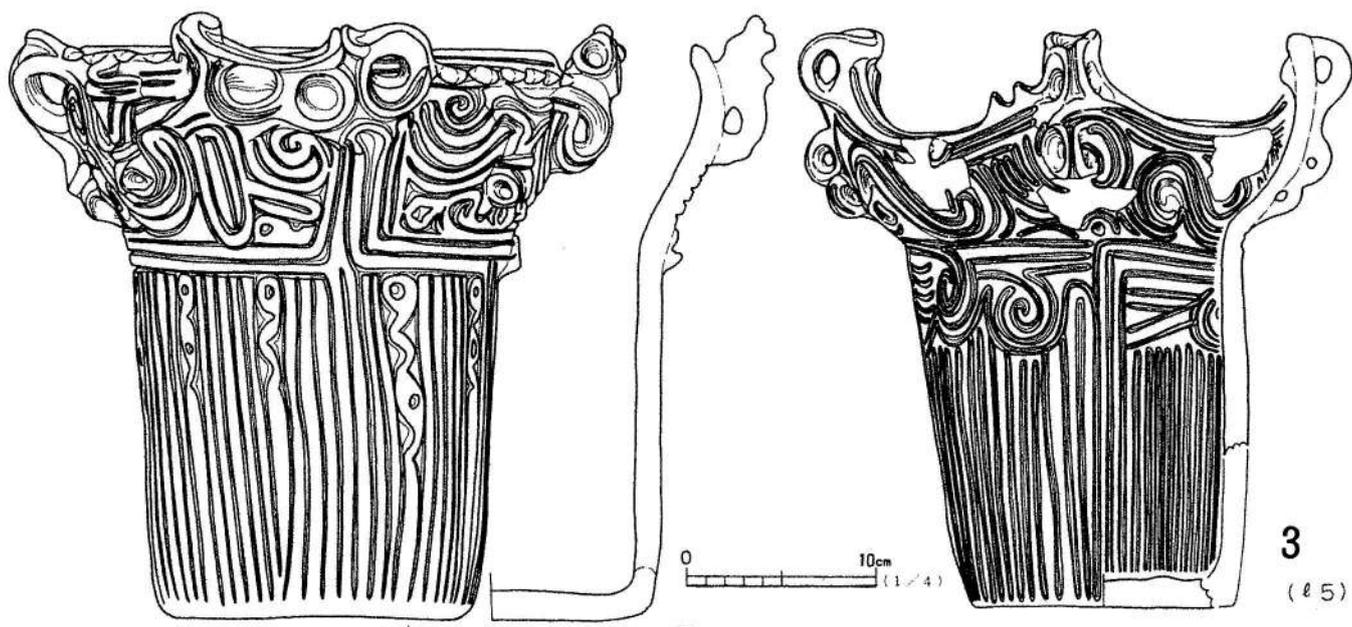
丹羽茂 1971「縄文時代における中期社会の崩壊と後期社会の成立に関する試論」

『福島大学考古学研究会研究紀要1』

# 天栄村桑名邸遺跡の地形と発掘遺構

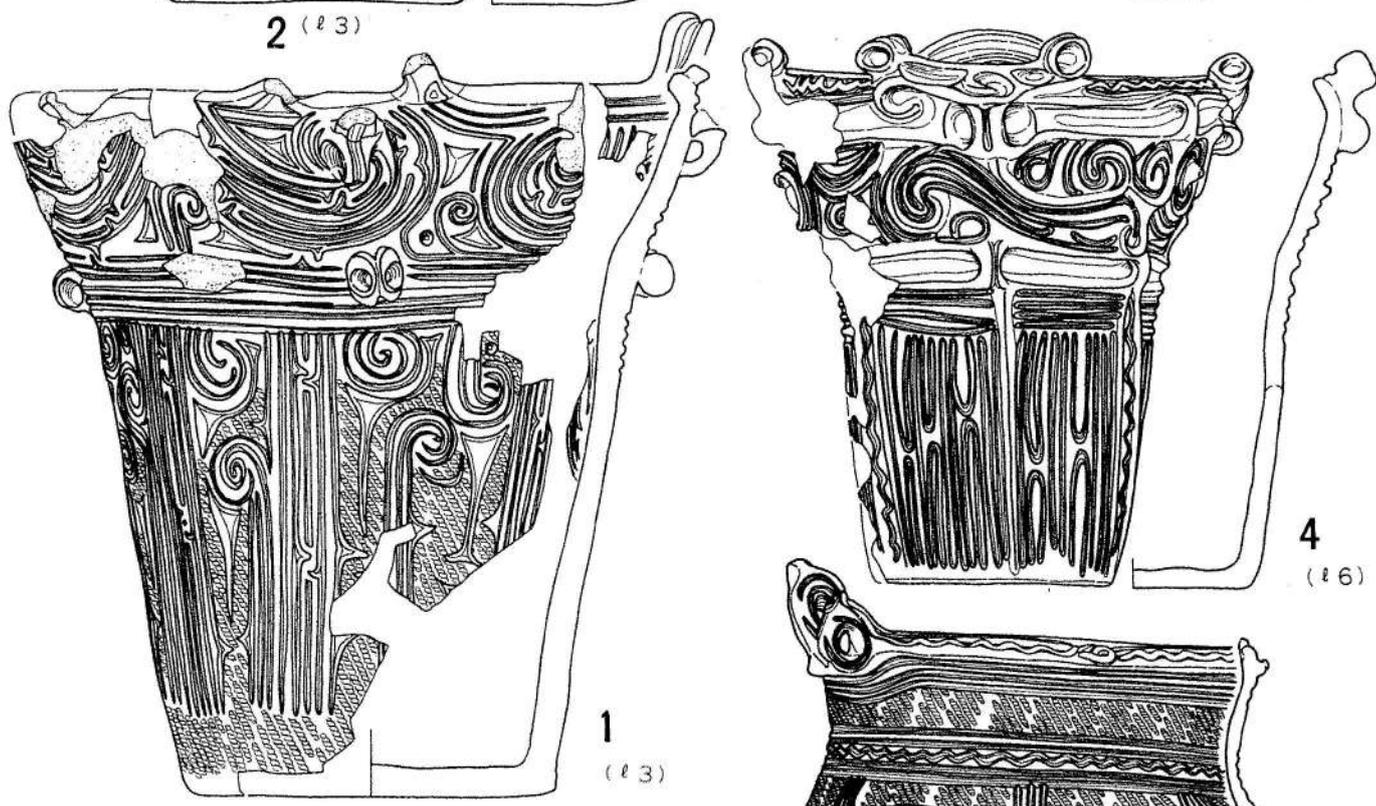
(目黒吉明 (監修) 1990『矢吹地区遺跡発掘調査報告 6 桑名邸遺跡 (第2次)』  
福島県教育委員会・財福島県文化センターより作成)





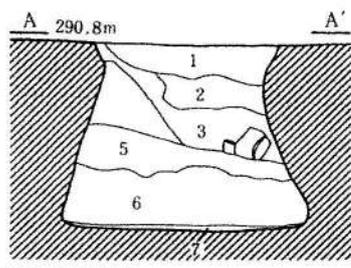
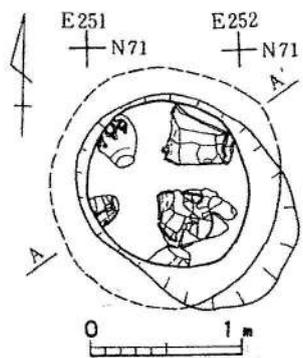
2 (ℓ 3)

3 (ℓ 5)



1 (ℓ 3)

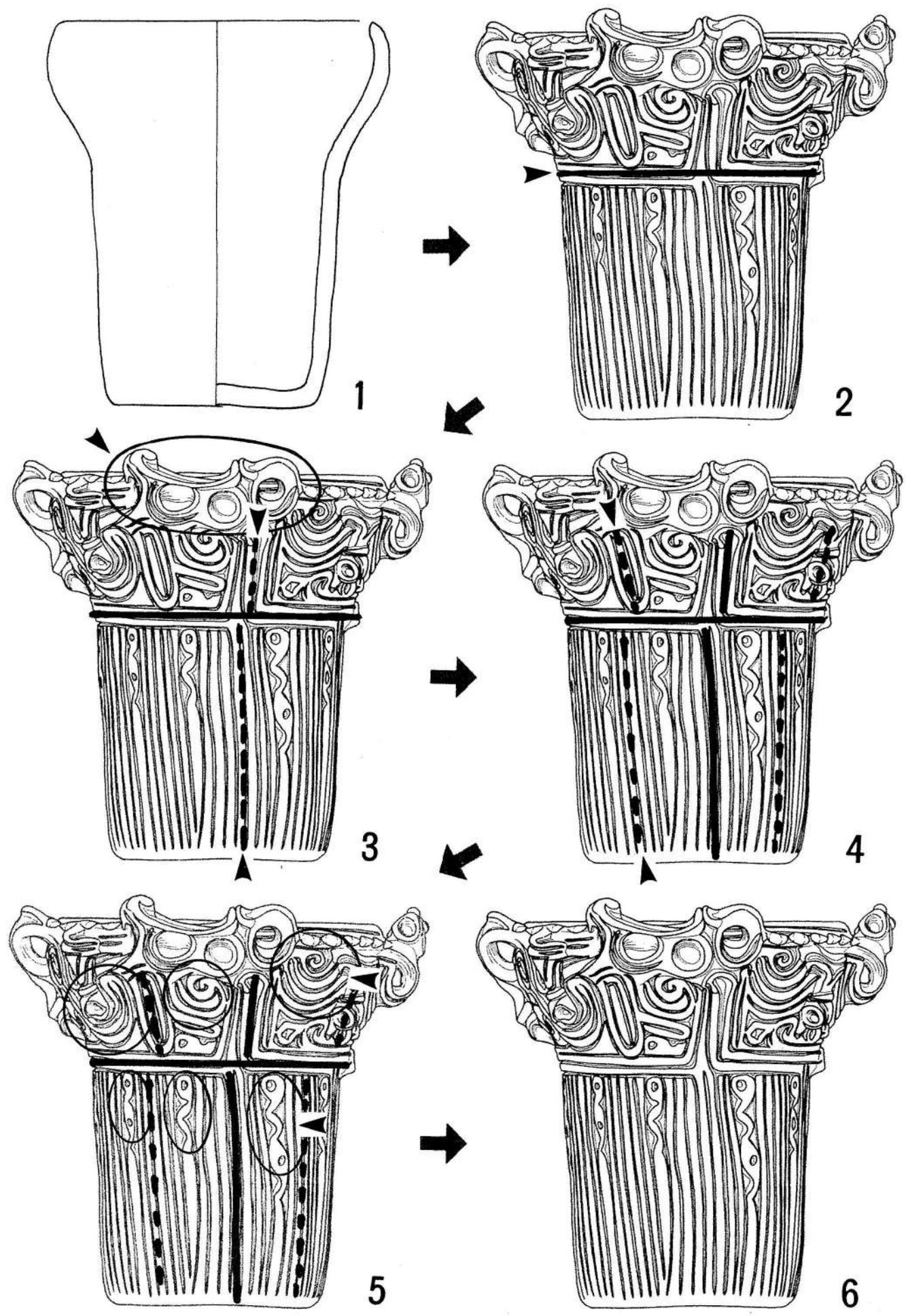
4 (ℓ 6)



- 381号土坑内堆積土
- 1. 褐色 シルト (ローム、木炭、バミス)
  - 2. 暗褐色 シルト (ローム、木炭、バミス少)
  - 3. 黄褐色 シルト (ローム、木炭、バミス)
  - 4. 黒褐色 シルト (ローム、木炭、バミス)
  - 5. 黒褐色 シルト (4より軟、混入量少)
  - 6. 黒褐色 シルト (ローム、木炭)



5 (底面)



381号土坑-土器1はこうして作られた(『桑名邸遺跡』をもとに作成)

縄紋土器一般の無数の変化は、地方及び時代による変化の雑然とした集合である。我々はこのままを縄紋土器の姿だとは考え得ない。寧ろ斯くの如き器物の羅列を一旦棄却しよう。そして、地方差、年代差を示す年代学的の単位——我々が型式と云って居る——を制定し、これを地方的年代的に編成して、縄紋土器の形式網を作ろう。この新しい基準によって土器の製作、形態装飾を縦横に比較して土器の変遷史を作ることが出来るであろう。そしてその結果に照して所謂縄紋土器全般を見直すことが出来るであろう(註5)。

文化の変遷は進行中の状態で観察することは出来ない。任意の物件を並列し、独断によって古かるべきものを決め、それに照して新しきものを推定する様な所謂型式学は取るに足らず、我々もこの方針の失敗を数多傍観したのである。真に執るべき科学的手段は先づ個々の短い時代の文物を確認する。そしてこれらを層位又はその他の自然現象に応じて年代順を定める。又はその欠を補うため文物の比較をして先後を推定する。そして各々の短時期の文物を年代的に編成し、その間に於ける文物の変遷を見るのが順序である。従って連続する文化の区分は最も短時日である程、一挙一動まで明にされるであろう。縄紋土器文化の最短期間の状態は縄紋土器の型式区分を通じて知り得るのであるが、その区分が最も細くなる程、その変遷の詳細を明にし得るであろう。型式は益々細分され、究極まで推し進むべきである。

縄紋土器型式の大別と細別

	渡島	陸奥	陸前	関東	信濃	東海	畿内	吉備	九州
早期	住吉	(+)	畑木 1 " 2	三戸・田戸下 子母口・田戸上 茅山	曾根? × (+)	ひじ山 粕畑		黒島 ×	戦場ヶ谷 ×
前期	石川野 × (+)	円筒土器 下層式 (4型式以上)	室浜 大木 1 " 2a, b " 3-5 " 6	蓮田 { 花積下 関山 式 黒浜 諸磯 a, b 十三坊台	(+) (+) (+) 踊場	鉢ノ木 ×	国府北白川 1 大歳山	磯ノ森 里木 1	藤?
中期	(+) (+)	円筒上 a " b (+) (+)	大木 7a " 7b " 8a, b " 9, 10	五領台 阿玉台・勝坂 加曾利 E " (新)	(+) (+) (+) (+)			里木 2	曾畑 阿高 出水 } ?
後期	青柳町 × (+) (+)	(+) (+) (+)	(+) (+) (+)	堀之内 加曾利 B " 安行 1, 2	(+) (+) (+) (+)	西尾 ×	北白川 2 ×	津雲上層	御手洗 西平
晩期	(+)	亀ヶ岡式 { (+) (+) (+) (+)	大洞 B " B-C " C1, 2 " A, A'	安行 2-3 " 3	(+) (+) (+) 佐野 ×	吉胡 × " × 保美 ×	宮滝 × 日下 × 竹ノ内 × 宮滝 ×	津雲下層	御領

註記 1. この表は仮製のものであって、後日訂正増補する筈です。  
 2. (+) 印は相当する式があるが型式の名が付いて居ないもの。  
 3. (×) 印は型式名でなく、他地方の特定の型式と関聯する土器を出した遺跡名。



I.口頸部の文様帯



左右とも  
縄文前期・円筒下層C式  
(青森・是川一王寺貝塚)



I.口頸部の文様帯

縄文前期・関山式  
(栃木・藤岡貝塚：明治大学蔵)

★縄文土器は、水平線を引いて器面を横帯状に分割して「文様帯」(装飾帯)を設ける。

★その文様帯に、一定の「単位文様」(図形)を配列する。

\*山内清男(1964)は、縄文のみ・無文の部位は文様帯とみなさなかつた。

★文様帯区画の位置は器形の変化点と対応。

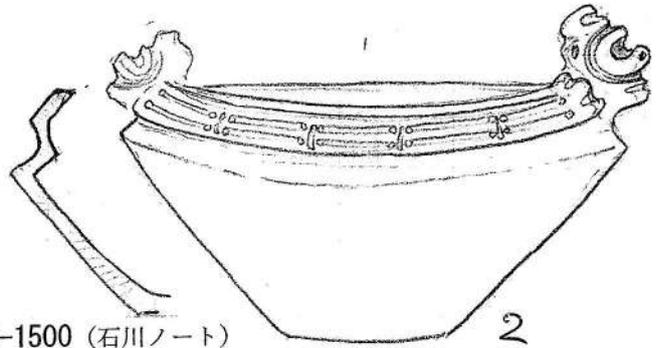
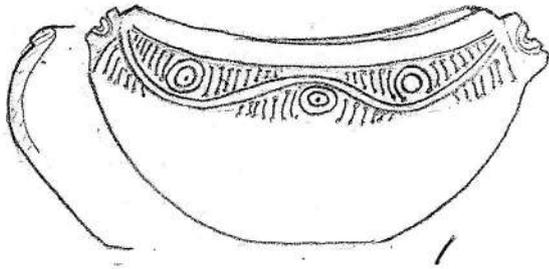


I.口頸部の文様帯

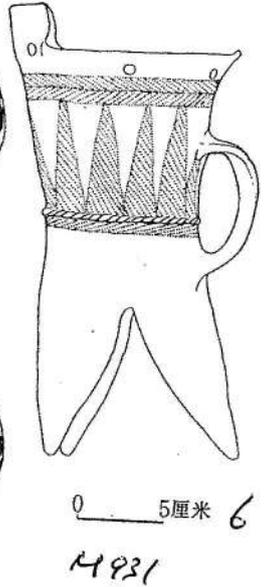
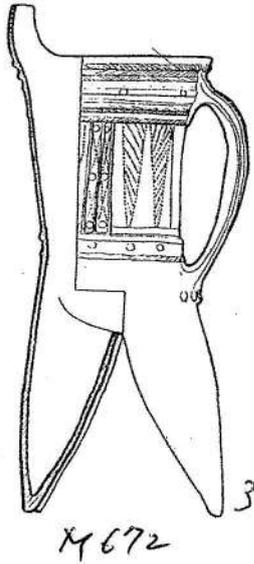
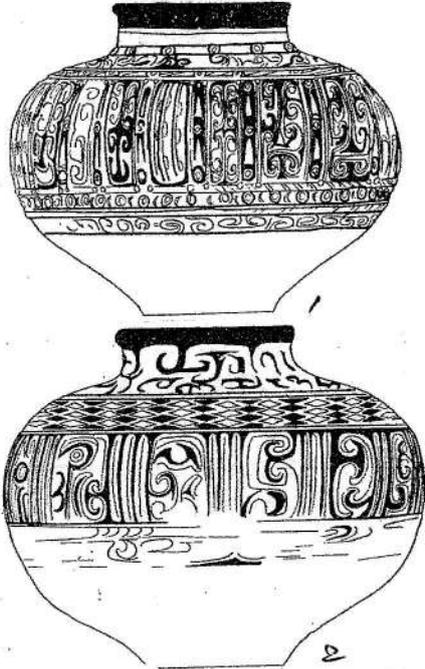
II.体部の文様帯

縄文前期・吹浦式  
(山形・吹浦遺跡)



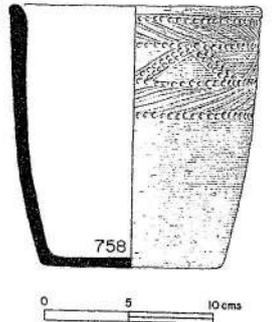
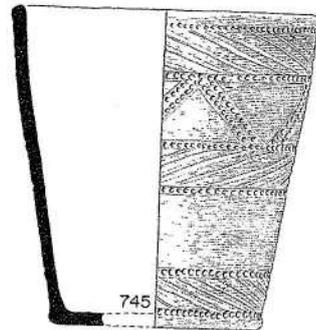
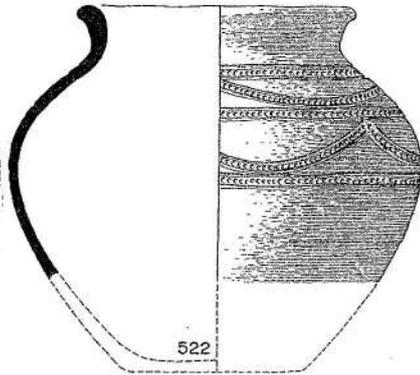
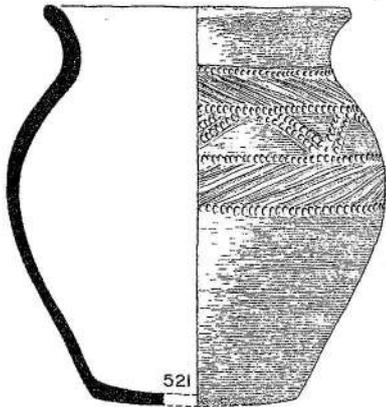


カリブ海：ドミニカ Taino tradition AD1000-1500 (石川ノート)



中国東北部：大甸子遺跡 BC2000 年紀

(中国社会科学院考古研究所『大甸子』1996)



ブリテン島：鉄器時代 BC1000 年紀末 (B.Cunliffe1984 DANEburyHILLFORT.CBA)



北米：Pueblo-Zuni 族 19 世紀 (R.L.Bunzel1929 THE PUEBLO POTTER, Dover Publications,Inc.)